

九州経済圏貿易統計のポイントについて (令和3年上半期分：速報)

<対世界>

○輸出総額：4兆2,668億円(伸率：+23.9%) ⇒ 5期ぶりのプラス

・順位：6位

(順位は、昭和54(1979)年上半期以降(85期)による。以下同じ。)

・増加品目：自動車(同+41.5%)、鉄鋼(同+39.2%)

○輸入総額：3兆2,685億円(伸率：+13.6%) ⇒ 5期ぶりのプラス

・順位：24位

・増加品目：金属鉱及びくず(同+40.5%)、石油製品(同+64.6%)

○差引額：9,984億円(伸率：+75.8%) ⇒ 13期連続の輸出超過

・順位：5位

2021年上半期：107.19円/ドル(2020年上半期：108.37円/ドルと比べ1.1%の円高)

<品目別動向>

○輸出

自動車(7,450億円→1兆545億円、伸率：+41.5%)は、アメリカ(1,747億円→2,856億円、同+63.5%)及び中国(3,026億円→3,933億円、同+29.9%)向けが増加し、4期ぶりのプラスとなった。また、鉄鋼(2,387億円→3,323億円、同+39.2%)は、タイ(306億円→654億円、同2.1倍)及びEU(54億円→198億円、同3.7倍)向けが増加し、6期ぶりのプラスとなった。

一方、船舶(2,191億円→1,829億円、同▲16.5%)は、EU(214億円→実績なし)及びパナマ(939億円→810億円、同▲13.7%)向けが減少し、3期連続のマイナスとなった。

○輸入

金属鉱及びくず(2,920億円→4,105億円、伸率：+40.5%)は、銅鉱(1,481億円→2,076億円、同+40.2%)が増加し、2期連続のプラスとなった。また、石油製品(1,369億円→2,253億円、同+64.6%)は、アラブ首長国連邦(266億円→594億円、同2.2倍)及び韓国(271億円→407億円、同+50.5%)からが増加し、5期ぶりのプラスとなった。

一方、原粗油(1,629万KL→1,233万KL、同▲24.3%、5,517億円→5,039億円、同▲8.7%)は、数量、価額ともに減少し、5期連続のマイナスとなった。

※ 伸率及び増加・減少は、すべて対前年同期比